

博報堂、自主開発型クリエイティブ・ラボ「スタラボ」第4弾 雪かきの運動量を可視化し、ゲーミフィケーションする 「Dig-Log (ディグログ)」を開発

株式会社博報堂（東京都港区、代表取締役社長：戸田裕一）のクリエイティブ・ラボ「スタラボ」は第4弾プロトタイプとして、雪かきの運動量を可視化し、ゲーミフィケーションすることで単純作業を楽しみながら継続することができる IoT デバイス「Dig-Log (ディグログ)」を開発しましたのでお知らせいたします。

Dig-Log は、スタラボと博報堂DYグループの博報堂アイ・スタジオ「HACKist (ハックイスト)」チーム、そして日本有数の豪雪地帯である新潟県にある長岡技術科学大学・工学部の上村靖司教授（日本氷雪学会・評議員）と共同開発したもので、既存の雪かきスコップにアタッチメント式の感圧センサーを取り付けて「IoT デバイス化」します。除雪した雪の重さと消費カロリーを算出し、連動したスマホアプリで可視化して記録。今まで退屈な重労働だった雪かきに達成感やダイエットなどの目的意識を醸成したり、他者と競い合ったりするなど新しいモチベーションを生みだし、ゲーム感覚のウィンタースポーツとして楽しむことができます。楽しめる雪かきにすることで、近年課題となっている過疎の豪雪地帯における雪かきの担い手の高齢化による人手不足の解消につながることを期待します。



なお Dig-Log は、3月にアメリカ・テキサスで開催されるテクノロジー・スタートアップのイベント、「サウス・バイ・サウス・ウエスト (SXSW) 2016」のトレードショーにおいて、博報堂グループ・ブースで体験展示される予定です。世界中で同様の問題を抱える地域の人々にアプローチするほか、新しいウィンタースポーツとしての価値化にもチャレンジしていきます。

「スタラボ」は、博報堂のクリエイターが持つ発想力等のスキルと、これまで培ってきた社内外のネットワークを活かし、先進的なアイデアを形にする自主開発業務を中心に行い、開発した案件を様々な企業・社会に提案していきます。

◆スダラボ 自主開発（プロトタイプ）第4弾

製品名：Dig-Log（ディグログ）

概要：除雪した雪の量や消費カロリーを計測し記録する IoT デバイス

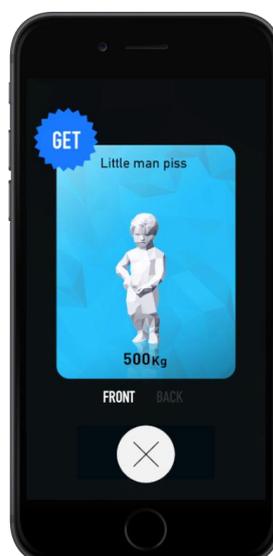


Dig-Log を握って雪かきをすることで、運んだ雪の重さや消費したカロリーがわかります。



アタッチメント式にすることで、既存の雪かきスコップの柄に装着可能。

※一部装着できないスコップもあります



本体と Bluetooth で連動するスマホアプリは、リアルタイムで雪の重量と消費カロリーを算出します。運んだ総量（重量）に応じて、小便小僧・モアイ・自由の女神・スフィンクスなどの「雪像アイコン」がコレクションでき、楽しくモチベーション・アップがはかれます。

● 博報堂「スダラボ」 <http://suda-lab.jp/>

「スダラボ」は、デジタル領域・ダイレクト領域などに強みを持つ博報堂の社内クリエイターが中心となり、次世代型クリエイティブを開発するラボ。2014年3月より活動開始。

スダラボが青森県田舎館村と共同で開発した「ネイチャーバーコード（ライスコード）」は、アジアを代表する広告祭「アドフェスト2014」メディア部門のグランプリを受賞。そのほかの部門でも金銀銅を6つ受賞。さらに2014年6月の「カンヌクリエイティビティフェスティバル」ではゴールド2、シルバー1、ブロンズ2を受賞。2016年3月までに、アメリカ、ヨーロッパ、アジア各国でグランプリ8、ゴールド15を含む、60以上の海外賞を受賞しています。

第1弾「ネイチャーバーコード（ライスコード）」につづき、第2弾「トーカブル・ベジタブル」、第3弾「360° ホラー+パニックーポン」、いずれも複数の海外賞を受賞。今回の「Dig-Log（ディグログ）」が「スダラボ」の第4弾です。

スダラボ™

第1弾「ネイチャーバーコード（ライスコード）」

田んぼアートをQRコードのように読み取り、お米をダイレクトに購入可能。「風景」を「売り場」に変えるアプリです。



第2弾「トーカブル・ベジタブル」

店頭野菜に触れると、野菜が生産者の声でしゃべりだし、自分のことをPR。新しさと面白さを兼ね備えた、店頭プロモーションツールです。



第3弾「360° ホラー+パニックーポン」

オリジナルの「360° ホラームービー」を見てもらい、心拍数の上昇に応じて割引クーポンを発行。怖がる人ほど得をする、インタラクティブクーポンです。



● 博報堂アイ・スタジオ HACKist（ハックイスト） <http://hackist.jp/>

HACKistは、博報堂アイ・スタジオのクリエイターとエンジニアなどからなる有志のプロジェクトで生活の中に潜むあらゆる現象や社会が抱える課題をテクノロジーでチェンジさせていくことをテーマに、五感に作用するプロトタイプの企画・制作を行っています。様々なニーズに合わせてテクノロジーで最適な形へとプロトタイプを対応させていく「Metamorphic Prototyping（メタモルフィック プロトタイプング）」の概念をもとに、オリジナル基盤やセンサーを組み合わせたデバイス製作やそれと連動するアプリの開発、WebGLやopen Frameworks、UNITYといったビジュアルコーディングを駆使することで、新しい広告モデルの製作やイベント演出やプロダクト開発など、活動の領域を広げています。